

平成 19 年度 事業報告書

学校法人 甲南女子学園

1. 学校法人の概要

学校法人甲南女子学園(以下「本学園」という。)は、大正 9 年(1920 年)の甲南高等女学校創立以来、「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「清く正しく 優しく 強く」を校訓として掲げると共に、「全人教育、個性尊重、自学創造」の教育方針を持ち、阪神間を代表する品格ある女子教育機関として、豊かな人間性を育みつつ、個性に応じた才能を伸ばす教育を実践してきました。

甲南女子大学大学院(人文科学総合研究科)、甲南女子大学(文学部・人間科学部・看護リハビリテーション学部)、甲南女子高等学校、甲南女子中学校を有する本学園は、創立以来 87 年の伝統を礎にし、女子教育機関としての使命を果たし、現在の同窓生数は 42,000 名を超え、社会の各方面で活躍中です。甲南女子大学では、21 世紀型の女性大学として、グローバルな視野で、柔軟な思考と行動力を身に付けた女性を育成し、男女共同参画社会での豊かな社会づくりに貢献できる次代を担う女性の輩出を目指しています。また、甲南女子高等学校・同中学校では、知・徳・体のバランスの取れた人格の育成を基盤として、少人数教育による一層の教育成果の実現を目指しています。

今後、学校法人甲南学園、学校法人甲南学園甲南小学校・同幼稚園、財団法人甲南病院及び本学園の甲南 4 法人の絆を更に深め、4 法人共通の創立の精神のもと、それぞれの特色、英知を更に結集、強化し、阪神間における甲南 4 法人の存在感をより一層高めていきたいと考えています。

1. 学生・生徒数等の推移(5月1日現在)

(単位:名)

区分	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度
学生在籍者数				
大学院	72	79	66	58
文学部	1,969	1,770	1,611	1,452
人間科学部	1,498	1,471	1,433	1,515
看護リハビリテーション学部	-	-	-	142
計	3,539	3,320	3,110	3,167
生徒在籍者数				
高等学校	457	455	469	467
中学校	494	498	504	508
計	951	953	973	975
教職員数				
専任教職員	208	205	213	243
非常勤教職員	328	313	294	302
計	536	518	507	545

．事業の概要

1．事業の概況

本学園を取り巻く環境は、少子化の進行、学校間競争の激化等、ますます厳しさを増しています。かかる状況下で、本学園は、87年にわたる甲南女子教育の伝統と実績を踏まえ、中学校・高等学校・大学一貫の女子教育の常に新しいあり方を追究すると共に、中長期の視点から健全財政の実現、経営基盤の更なる安定・強化に取り組んでいます。

甲南女子大学では、時代に向けた改革に着手し、文学部・人間科学部の改組と共に、平成19年度には看護リハビリテーション学部（看護学科・理学療法学科）を開設し、社会のニーズに応えるべく、総合子ども学科の一層の充実のために「社会福祉法人甲南愛育会」を設立し、平成21年4月「甲南保育園」（神戸市東灘区森南町）開設に向けて準備を進めています。特に「甲南女子大学の教育理念」を制定し、本学の歴史・伝統を支えてきた建学の精神・教育方針・校訓を尊重しつつ、これからの大学教育において目指すべき方向性を明確化しました。更に、「教育の活性化7つのプロジェクト」の提言を踏まえ、学園創立90周年(平成22年)の節目も織り込んで「大学中期ビジョン」を策定しました。

甲南女子中学校においては、スペシャル・アドバンスト・コース（Sアドコース）を平成20年度から開設することを決定しました。

管理・運営面においては、校長任命規程、学園稟議規程、期限付助教・助手採用規程の整備を行いました。監事機能の支援のため「内部監査室」を、公益通報者保護法に対応していくための相談窓口を事務局（総務課）に設置しました。また、教育環境の整備及び教育研究の推進に対する支援を目的とする「甲南女子学園教育振興基金」制度を設け、本学園の卒業生・教職員・保証人・役員等へ募金への支援・協力の依頼を継続しています。

2．大 学

(1)教育体制 21世紀に求められる新学部・学科を企画し、平生鈞三郎先生が創設された甲南病院との連携をもとに、平成19年度に「看護リハビリテーション学部(看護学科、理学療法学科)」を開設しました。また、人間科学部総合子ども学科では、保育士、幼稚園教諭1種免許に加え、平成19年3月末に小学校1種免許課程の認定を文部科学省から得ました。更に、平成20年度から次のとおり学科名称を変更することにしました。文学部(日本語日本文学科 日本語日本文化学科、多文化共生学科 多文化コミュニケーション学科)、人間科学部(行動社会学科 文化社会学科、人間環境学科 生活環境学科)。

大学院(専攻)・学部(学科) 一覧 (平成 19 年度)

大学院	人文科学総合研究科 (博士前期・後期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻
学 部	文 学 部 日本語日本文学科 英語英米文学科 多文化共生学科 メディア表現学科 フランス語フランス文学科(募集停止)
	人間科学部 心理学科 総合子ども学科 人間教育学科(募集停止) 行動社会学科 人間環境学科
	看護リハビリテーション学部 看護学科(新設) 理学療法学科(新設)

(2)教育活動 平成 18 年度からカリキュラムの改定を行い、学生の履修及び資格取得の多様化を図っています。特に基礎科目で導入教育を重視し、新入生が大学や大学生活を多様な面から体験し、大学をよりよく知る「大学探検」を開設しました。この科目の中でマナー講座を必修化すると共に、人間関係や身近な現象を通して、自己と他者について考える「自分の探求」、将来の進路選択をサポートする「キャリアデザイン」、就職に役立つ日本語のスキルアップを目指す「キャリアのための日本語」を開設しています。

(3)外国語教育「英語」はすべての学生があらゆるコミュニケーションに対応できるように、総合的にスキルアップできるカリキュラム編成をしました。更に英語検定試験、海外留学、海外旅行、映画、インターネット、通訳・翻訳などの目的別科目を配置しています。「初習外国語」は、中国語、韓国語、ドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語、ブラジル・ポルトガル語、インドネシア語を設置し、各言語が用いられてきた地域の生活や歴史を手がかりに、わが国や英語圏とは異なる文化について学んでいます。

(4)国際交流 語学力と国際感覚を身につけるため、各種留学、語学研修プログラム等を実施しました。

認定留学 ミルズカレッジ(米) 西イリノイ大学(米) ヨーク大学(英) リジャイナ大学(加) ナント大学(仏)
天津外国語学院(中) 淑明女子大学(韓)
クライストチャーチ教育大学(ニュージーランド)

語学研修 ヨーク大学(英) シドニー大学(豪) パリ CAFJ(仏)
リジャイナ大学(加) 天津外国語学院(中)
淑明女子大学(韓)

交換留学 天津外国語学院(中) 淑明女子大学(韓)

- (5)情報教育 情報リテラシーの能力を備えた学生の育成に努めると共に、普通教室のマルチメディア化、コンピュータ支援 LL 教室の設置等教育環境の整備も同時に進めています。
- (6)学生生活 品格ある女子大学の再生を目指し、マナー教育(社会化教育プログラム)を「社会貢献活動」と位置づけ、様々な活動を展開しました。岡本地区一斉クリーン作戦への参加、学生プロジェクト基金 21、障害学生支援活動などを通じて、責任感・公共道徳・自主性などを育てています。また、優秀学生の表彰も行っています(大学 優秀学生賞、同窓会 清友会賞、教育後援会 学習奨励賞)。9月には、教育フェア 2007 を開催し、大学と家庭を結ぶための教育懇談会と就職説明会を同時開催しました。
- (7)課外活動 軟式庭球部 関西学生ソフトテニスシングルス大会 準優勝
チアリーディング部 第14回西日本チアリーディング選手権大会
優勝
水泳部 第2回世界ろう者水泳世界選手権大会
女子 400m自由形 銀メダル
200mバタフライ 銀メダル
800m自由形 銅メダル
- (8)就職活動 就職や職業に対する意識を高め、進路の多様化にも応えていくため、就職ガイダンス以外にも個別面談・模擬試験やインターンシップ活用を積極的に行い、学生の就職活動をきめ細かくバックアップしています。また、学生のキャリアアップのための「資格サポートセンター」でも、各種資格・就職試験対策をサポートしました。
- (9)大学開放 4月に第42回シェイクスピア祭を芦屋市民会館にて開催。また年数回、子ども学講演会を開催しました。9月には県下大学連携ひょうご講座に参加すると共に、本学主催の公開講座を11月に開催しました。さらに10月第4土曜日には同窓生を招いて、第26回ホームカミングデーを開催しました。(大学祭と同時開催)
- (10)学生募集 広報では、ホームページの充実と共に、進学情報誌、新聞など広告媒体を厳選し、検証しながら活動しています。学生募集では、オープンキャンパス、進学説明会を開催、高校訪問活動を活発に推進し、高校側とのコミュニケーション向上に努めています。
- (11)表彰 学生による「後輩に勧めたい授業科目・教員について」の投票の結果に基づいて選出された大学教員(同得票数のため2名)に「ベスト・ティーチャー賞」を授与しました。
- (12)地域貢献 18年度に本学と神戸市東灘区との間で「地域連携協力に関する協定」を締結し、継続して、まちづくりの推進、教育・文化・健康・スポーツの振興及び発展、地域福祉の向上、人材の育成、地域の安定・安心の推進などについて、地域の連携活動に貢献しています。

3. 中学校・高等学校

- (1)教育活動 中学1年は、4月入学式前に友達作りと中学生としての自覚を促すことを目的としたスプリングセミナーを実施、2年は平和学習（総合の時間及び9月下旬に広島平和研修旅行を実施）3年は多くの保育所の協力の下、1学期末考査後に保育体験学習を実施しました。
高校1年は、3月末に実施したスプリングセミナー(勉強合宿)で、自ら学ぶ姿勢を身につけ、11月に「探求（総合の時間）」と連動した「水俣研修旅行」を実施しました。2年(希望者)は8月に行ったサマーセミナー(勉強合宿)で学習深度を深めました。また、11月に「探求(総合の時間)」と連動した研修中心の「水俣・沖縄修学旅行」を実施しました。
2月2日(土)に、1年間の総合学習(探求・平和)・環境学習の成果を発表する「学習成果発表会」を、甲南大学、甲南中学校・同高校、甲南小学校の参加を得て、実施しました。
- (2)生徒指導 品位ある人格養成のため、「あいさつ」の励行運動(和光会と協同実施)や頭髪・容儀等、教員全員で指導した結果、来校者の評価も上昇しており、学外で生徒にお世話になったとの感謝の声も届いています。しかし、登下校時の態度については、最寄駅(阪急芦屋川駅、JR甲南山手駅)での指導を含め、引き続き指導を続けています。
- (3)環境学習 6月・10月に広野で農作業体験を、9月に住吉川環境学習を甲南大学、甲南中学校・高等学校、甲南小学校と合同で実施しました。2月には、甲南小学校で行われた「収穫祭」にも参加しました(いずれも希望者)。
- (4)行事 春の文化祭、秋の体育大会共、生徒による自主的な運営により行われており、文化祭は雨天にもかかわらず来校者数が3886名と盛況となりました。
- (5)土曜活用 高校2年・3年の希望者を対象に、通年で国語・数学・社会・理科・英語の補習授業を実施しました。
- (6)国際交流 夏期休暇中にカナダホームステイ(16名)、イギリス・ベルランゲージ研修(9名)、11月にはエジモントハイスクール研修(米・16名)を実施しました。また、ディートリッヒ・ボンヘッファー・ギムナジウム(独、派遣1名、受入1名)、イリノイ大学付属高校(米、派遣1名、受入1名)との1年間交換留学も実施しました。なお、4月にはシドニーガールズハイスクールの生徒14名の短期受入をし、ホストファミリーに色々お世話になりました。
- (7)課外活動 写真部 兵庫県高等学校写真連盟春季写真コンテスト
佳作(4名)神戸支部賞(5名)努力賞(1名)
兵庫県高等学校総合文化祭写真コンテスト
最優秀賞、兵庫支部賞(3名)
放送部 兵庫県中学校放送コンテスト
アナウンス部門4位(優良賞、全国大会出場)
兵庫県高等学校総合文化祭 放送文化部門

	アナウンス部門 奨励賞 (2名)	
	朗読部門 奨励賞 (1名)	
	NHK 杯全国高等学校放送コンテスト兵庫県大会	
	アナウンス部門 9位 (全国大会出場)	
	朗読部門 佳作 (2名)	
コーラス部	NHK 全国学校音楽コンクール兵庫県大会	
	中学校・高校共に銀賞	
	関西合唱コンクール 中学校・高校共に金賞	
	兵庫県合唱コンクール 中学校・高校共に金賞	
	こども音楽コンクール 西日本優秀校	
		最優秀賞
演劇部	神戸市高等学校演劇発表会	最優秀賞
アーチェリー部	兵庫県高等学校総合体育大会	
	アーチェリー競技	
		団体優勝 (全国大会出場)
		個人優勝・2位・4位
	第40回全国高等学校アーチェリー選手権大会	
		団体準優勝、個人5位・6位
	国民体育大会アーチェリー競技大会	
	少年女子 団体5位 (本校生2名)	
		個人6位
	兵庫県スポーツ優秀選手賞 銀メダル (3名)	
弓道部	兵庫県高等学校総合体育大会 弓道競技	
		団体2位、個人優勝 (全国大会出場)
	全国高等学校選抜弓道大会	
		団体3位、個人2位・6位
馬術	JRA馬事公苑馬術大会	優勝
	近畿馬術大会障害飛越競技	3位
写生大会	王子動物園写生大会	銀賞
ピアノ	ベートンピアノコンクール地区大会	優秀賞
		5位 (全国大会出場)
書道	兵庫県私学書展	特選
	日本学書展	準特選

(8)安全教育 子どもが暴力から自分を守るための教育プログラム：CAP (Child Assault Prevention)の研修会を、生徒・保護者(中学2年)及び全教員を対象として10月に実施しました。下校時刻(15時45分から17時45分)に、安全巡視員の巡回による不審者対策を講じました。

(9)生徒募集 平成20年度より実施するSアドコースとスタンダードコースの新体制の広報を中心に、10月・11月・12月に3回の学校説明会を実施しました。参加総数は1517名に及びました。校外での説明会も盛況で、平成20年度中学入試の実質倍率2.27倍に繋がりました。

財務の概要（平成 19 年度決算の状況）

(1) 資金収支計算書

学校法人が1年間を通して教育研究活動等の諸活動を行うことにより、生ずるすべての収入及び支出の内容を表示したものです。

【収入の部】

(単位:千円)

科 目	決 算 額	19年度決算	18年度決算
学生生徒等納付金収入	4,351,933		247,815
手 数 料 収 入	98,630		7,928
寄 付 金 収 入	43,268		2,345
補 助 金 収 入	545,537		29,618
資 産 運 用 収 入	390,391		85,944
資 産 売 却 収 入	2,027,347		1,375,105
事 業 収 入	36,441		3,521
雑 収 入	216,598		47,091
前 受 金 収 入	1,005,165		72,575
そ の 他 の 収 入	1,401,857		45,730
資金収入調整勘定	1,172,418		283,600
計	8,944,749		1,288,026
前年度繰越支払資金	2,654,107		1,891,360
収入合計	11,598,856		3,179,386

資金収入計(前年度繰越支払資金を除く)は、前年比 12 億 8802 万円減の 89 億 4474 万円となりました。主な減少は、資産売却収入(有価証券の期限前償還 14 億円減)、資産運用収入、資金収入調整勘定(前期末前受金 2 億 1602 万円増)によるものです。一方、主な増加は、学生生徒等納付金収入、補助金収入、前受金収入(平成 20 年度新入生納付金)の増加によるものです。

【支出の部】

(単位:千円)

科 目	決 算 額	19年度決算	18年度決算
人 件 費 支 出	3,432,168		404,849
教育研究経費支出	1,017,645		124,530
管 理 経 費 支 出	436,774		6,779
施 設 関 係 支 出	136,454		2,004,411
設 備 関 係 支 出	147,756		740,727
資 産 運 用 支 出	3,278,900		1,420,770
そ の 他 の 支 出	345,951		107,743
資金支出調整勘定	153,156		53,922

計	8,642,492	3,481,643
次年度繰越支払資金	2,956,364	302,257
支出合計	11,598,856	3,179,386

資金支出計（次年度繰越支払資金を除く）は、前年比 34 億 8164 万円減の 86 億 4249 万円となりました。主な減少は、施設設備関係支出(新学部看護リハビリテーション学部の設置経費 24 億 5614 万円減)、資産運用支出(有価証券の期限前償還に伴う再運用 14 億円減)によるものです。一方、主な増加は、人件費支出、教育研究経費支出の増加によるものです。

この結果、次年度に繰越される支払資金は、前年比 3 億 225 万円増の 29 億 5636 万円となりました。

平成 19 年度の主な学生支援等事業費及び施設設備整備事業費は、次のとおりです。

【学生支援等事業費】

給付奨学金・貸与奨学金事業費	127,902 千円
就職対策講座等支援事業費	6,668 千円
教育懇談会・ホームカミングデー事業費	1,174 千円
マナー教育・クラブ活動支援事業費	5,728 千円
海外語学研修事業費	4,492 千円
計	145,964 千円

【施設設備整備事業費】

大学	
管理棟 衛生設備改修他	32,812 千円
芦原講堂 外壁補修・サッシ改修他	62,181 千円
3号館 AV 設備更新	30,000 千円
AV 製作スタジオ設備	21,007 千円
中高校	
中学棟 屋上防水・プール補修工事	51,030 千円
その他	
同窓会館 屋上防水・外壁補修工事	18,900 千円
計	215,930 千円

(2)消費収支計算書

学校法人の経営状況を明らかにするため、消費収入・消費支出の内容及び均衡の状況を表示しています。

【消費収入】		(単位:千円)	
科 目	決 算 額	19年度決算	18年度決算
学生生徒等納付金	4,351,933		247,815
手 数 料	98,630		7,928
寄 付 金	46,972		2,014
補 助 金	545,537		29,618
資 産 運 用 収 入	390,391		85,944
資 産 売 却 差 額	1,018		68
事 業 収 入	36,441		3,521
雑 収 入	216,598		28,360
帰属収入合計	5,687,520		233,244
基本金組入額合計	200,000		1,623,378
消費収入合計	5,487,520		1,856,622

学生生徒等納付金

看護リハビリテーション学部開設による学生増(142名)により、前年比2億4781万円増の43億5193万円となりました。納付金の内訳は、授業料39億3187万円、入学金4億2005万円の合計で、期中の学生・生徒数は4142名(平成19年5月1日現在)です。

手数料

前年比792万円増の9863万円となりました。手数料の主なものは入学検定料9172万円です。

寄付金

前年比201万円増の4697万円となりました。主な寄付金は中高校への教育環境整備資金として3600万円、甲南女子学園教育振興基金への教育環境整備資金及び教育研究推進資金として311万円の寄付を受け入れました。

補助金

前年比2961万円増の5億4553万円となりました。主な補助金は私立大学等経常費補助金2億5272万円、兵庫県私立学校経常費補助金2億6852万円、私立大学等研究設備整備費等補助金1273万円です。

資産運用収入

前年比8594万円減の3億9039万円となりました。各種積立金、運転資金等の受取利息3億8850万円及び施設設備利用料188万円です。

資産売却差額

主なものはスクールバスの売却益96万円です。

事業収入

主なものは大学の学生寮収入3425万円です。

雑収入

主なものは、退職金財団交付金収入 2 億 520 万円及びその他の雑収入 1134 万円です。

この結果、帰属収入合計は前年比 2 億 3324 万円増(4.3%)の 56 億 8752 万円となりました。

【消費支出】

(単位:千円)

科 目	決 算 額	19 年度決算	18 年度決算
人 件 費	3,367,466		376,058
教 育 研 究 経 費	1,781,395		202,517
管 理 経 費	498,053		4,363
資 産 処 分 差 額	216,950		108,496
徴収不能引当金繰入額等	6,800		849
消費支出合計	5,870,664		683,557

人件費

看護リハビリテーション学部教員(38名)の増加等により前年比 3 億 7605 万円増(12.5%)の 33 億 6746 万円となりました。平成 19 年 5 月 1 日現在の本務教職員数は 243 名、兼務教職員数は 302 名で、帰属収入に占める人件費割合は 59.2%です。

教育研究経費

看護リハビリテーション学部開設による経費の増加等により前年比 2 億 251 万円増(12.8%)の 17 億 8139 万円(内、減価償却費は 7 億 6374 万円)となりました。帰属収入に占める教育研究経費の割合は 31.3%です。

管理経費

前年比 436 万円減(0.9%)の 4 億 9805 万円(内、減価償却費 6127 万円)となりました。帰属収入に占める管理経費の割合は 8.8%です。

資産処分差額

施設設備の処分による除却損で 2 億 1695 万円となりました。主なものは、校外学舎(六甲山の家)の処分 1 億 4338 万円、機器備品・図書 7382 万円です。

徴収不能引当金繰入額、徴収不能額

当年度の貸与奨学金及び学費の回収不能額で 680 万円となりました。

この結果、消費支出合計は前年比 6 億 8355 万円増(13.2%)の 58 億 7066 万円となりました。

【収支差額の部】

(単位:千円)

当年度消費支出超過額 (消費収入合計 消費支出合計)	383,144	前年度繰越消費収入超過額	2,321,502
		当期基本金取崩額	500,281
		翌年度繰越消費収入超過額	2,438,639

当期の基本金組入は、第2号基本金へ中高校の校舎改築資金として2億円を組み入れました。その結果、帰属収入合計から基本金組入額合計を控除した消費収入合計は54億8752万円となり、消費収入合計から消費支出合計を差し引いた額3億8314万円の消費支出超過となりました。なお、第1号基本金組入については、当期の固定資産取得額が当期の除却額を下回り、学校法人会計基準第31条の基本金の取崩し要件に該当するため、5億28万円の基本金の取崩しを計上しました。前年度からの繰越消費収入超過額が23億2150万円であるため、翌年度に繰越される消費収入超過額は24億3863万円となりました。

(3) 貸借対照表

年度末における学校法人の財政状態を表示したもので、資産・負債・基本金、消費収支差額の項目について金額で明らかにしています。

(単位:千円)

科 目	平成19年度末	19年度末 18年度末
固 定 資 産	38,898,221	605,018
有 形 固 定 資 産	21,875,529	780,445
土地・建物・構築物	17,941,356	564,362
機器備品・図書・車輛	3,934,173	216,083
その他の固定資産	17,022,692	175,427
特定資産・有価証券	16,937,657	178,950
そ の 他	85,035	3,523
流 動 資 産	3,214,197	365,777
現 金 預 金	2,956,364	302,257
そ の 他	257,833	63,520
資 産 合 計	42,112,418	239,241

固定負債	1,513,157	64,703
退職給与引当金	1,513,157	64,703
流動負債	1,267,531	8,606
前 受 金	1,005,165	72,575

そ の 他	262,366	63,969
負 債 合 計	2,780,688	56,097

基 本 金	36,893,091	300,281
消 費 収 支 差 額	2,438,639	117,137
負債、基本金、収支差額合計	42,112,418	239,241

基本金の内訳 (単位：千円)

第 1 号基本金	32,983,091	第 2 号基本金	2,200,000
第 3 号基本金	1,210,000	第 4 号基本金	500,000

正味財産 (単位：千円)

正味財産=基本金+消費収支差額	39,331,730
-----------------	------------

平成 19 年度末の資産総額は、前年度より 2 億 3924 万円 (0.5%) 減少し、421 億 1241 万円となりました。固定資産は、主に土地、建物、機器備品等の有形固定資産が前年度より 7 億 8044 万円減少したことにより、388 億 9822 万円となりました。流動資産は、主に現金預金が 3 億 225 万円増加し、32 億 1419 万円となりました。資産の構成比率は、固定資産 92.4%、流動資産 7.6%です。

平成 19 年度末の負債総額は、前年度より 5609 万円(2.0%)減少し、27 億 8068 万円となりました。退職給与引当金の減少が主な要因です。総資金(負債+基本金+消費収支差額)に占める固定負債は 3.6%、流動負債は 3.0%です。

当期の基本金は組入額が 2 億円、取崩額が 5 億 28 万円となったことにより、平成 19 年度末の基本金総額は 3 億 28 万円減少し、368 億 9309 万円となりました。

この結果、総資産から総負債を差し引いた正味財産は、前年度より 1 億 8314 万円(0.4%)減少し、393 億 3173 万円となりました。

以上